



J A U W  
F U K U O K A

(一社)大学女性協会  
福岡支部会報  
2023.8.27  
発行  
第 44号

## 大学女性協会 2022年度8月例会(講演会)

多言語多文化環境で育つ子ども—シンガポールでの経験から—

8月28日、久しぶりの福岡支部例会が早良区高取公民館を会場に開かれました。現支部長の萩尾さんが長きにわたり館長をされていた公民館です。萩尾さんのおかげで、公民館の関係の国際交流に携わる方々なども参加してくださり、17名ほどが集いました。

当日は、「多言語多文化環境で育つ子ども」というタイトルで、「多言語」と「幼児」に重きをおいてお話いたしました。

日本の在留外国人の数は、コロナ以前に戻りつつあり、今後はさらに増えると考えられます。福岡市に限っては、すでに戻っています。外国につながりがあり、日本語支援を必要としている子どもたちも増えるでしょう。この子どもたちのことばのことを考えるために、シンガポールの多言語多文化環境で育つ孫と2ヵ月生活をして気づいたことが手掛かりになるかもしれないと思いました。

多言語多文化環境は、特別なことではないと思います。俵万智さんが「私は子どものころから言葉に興味がありました。きっかけは中2の時の転校です。父の仕事の都合で、生まれ育った大阪府から福井県へ。大阪弁が珍しくて笑われ、友達をつくるのに福井弁を覚えました。」(毎日新聞、2022.8.16)と語っているのを読むと、身近にも多言語多文化環境があると気づかされます。

バイリンガルやマルチリンガルの人にはそれぞれの言語の言語野があると言われます。シンガポールの孫の場合、脳の中に母親との言語の英語の木と父親との言語の日本語の木の2本がちょっと芽を出し、語彙が増えるたびに、表現が増えるたびに木が成長し葉が増えていっている、そんなイメージを描くと理解しやすいのではないかと思います。二つの木が何かの拍子に絡まったりしないように、周りの大人は言語を混ぜて使わないように気をつけます。つまり、子どもに対して英語を使う人(母親)はいつも英語を使い、日本語を使う人(父親)はいつも日本語を使います。あるいは、場面や時間で言語を切り替えることがあるかもしれません。インプットをたくさんする、たとえば話しかける、本を読み聞かせる、歌を歌うことが木の栄養になります。

日本で子育てをしている外国籍の方が周りの人から「子どもの日本語のために、家でも日本語を使った方がいい」と言われることがあります。でも、日本語がとても流暢だということではなければ、母語でたくさん話しかけたり、読み聞かせたり、歌を歌うことのほうが大切です。子どものアイデンティティの形成やルーツを大切に育つための母語の大切さを心にとめておきたいと思います。

当日紹介した資料の中から、参考までに一つだけ、文部科学省が2020年に公表した「外国人幼児等の受入れにおける配慮について」のURLをお伝えします。

[https://www.mext.go.jp/content/20200306-mext\\_youji-000005738\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200306-mext_youji-000005738_01.pdf)

(守山 恵子)

## 大学女性協会 2022年度10月例会(講演会)報告

日時:2022年10月29日(土)13時半~15時

場所:高取公民館

講演:「一人ひとりが“いきいき”と輝くために」~男女共同参画の勧め~

講師:前よかトピア国際交流財団専務理事 井上るみ氏

主催:高取校区男女共同参画協議会、大学女性協会福岡支部





講師の井上み氏は、男女の別なく働くことができる職場をと選ばれた福岡市での長年のお働きを通して、男女共同参画を体現された方です。ご自身の歩みをお話くださりながら、男女共同参画の目指すところを分かりやすく具体的にご講演くださいました。

男女共同参画は、ところどころで引用された「サラっ一句！わたしの川柳」(旧サラリーマン川柳)からも、お話の中で示してくださったさまざまなデータからも、まだまだ十分とは言えないことが分かります。そのような状況であっても、井上さんは働く場でパイオニアとして、後に続く女性

性のロールモデルとして、道を開いてこられました。市役所に入庁されてから、30代で係長、40代で課長、部長、50代で区長、局長を務められ、入庁時からの「市民が住み良い町」を作りたいという気持ちを持ち続け、それを最も大事な事として働かれました。

中学校の空き教室を使えるように交渉を重ねられて実現した子どもプラザのお話を印象深く伺いました。乳幼児とその親のためだけではなく、中学生たちにとっても大切な場所になっているようで、場所選びひとつとっても井上さんの柔軟なお考えと実行力が表れていると感じました。

早良区長時代のご活躍は、高取公民館の方々が十分にご承知のことと思いましたが、早良区民でない者にとっては、改めて知って驚くこともたくさんありました。その後、市民局長時代に発生した熊本地震の支援活動を素早くスムーズに取り仕切られ、その結果、延べ6,000人の市役所職員が支援活動に従事されたと伺いました。また、熊本地震から見えた、災害に備えるための課題を、すぐに福岡市の物資の備蓄追加、備蓄増につなげられました。井上さんが教えてくださった「顔晴る(がんばる)」で、一人ひとりが“いきいき”と輝ける社会を目指したいと思います。(守山 恵子)



## 映画「ヒロシマへの誓い サーロー節子とともに」上映とリレートークの報告

日時:2022年11月12日(土)14:00~16:15

会場:アミカスホール

今回は「地域で男女共同参画を！～広げようネットワーク」(略称:参画ネット)実行委員会の2022年度の活動の一つとして開催された映画鑑賞とリレートークの会でした。

参画ネットには21の団体が登録していて、大学女性協会福岡支部は、その一端を担っています。今回の役割は、アンケート調査の集計でしたが、相良さんが全部やってくださいました。当日、大学女性協会福岡支部から参加したのは3人でしたが会場には、180名あまりの人たちが参加していました。

映画は、サーロー節子さんが13歳の時に広島で被爆した時からの人生を追ったドキュメンタリー作品でした。カナダ在住で現在90歳のサーロー節子さんは、1965年からソーシャルワーカーとして働きながら世界各地で英語での被ばく証言活動を続け反核運動のリーダー的存在でいらっしやいます。ICAN(核廃絶国際キャンペーン)が2017年12月、ノーベル平和賞を受賞した時には授賞式でスピーチをされたのもサーロー節子さんでした。映画の後、「核兵器廃絶」をめざす高校生平和大使をはじめ、女性団体交流会「女性への暴力根絶」やNPO法人アジア女性センター「平和」運動などを行っている女性達によるリレートークが行われ閉会となりました。(桑原 洋子)



## 2023年度大学女性協会福岡支部総会報告

日時:2023年5月13日(土)11:30～ 会場:ホテルオークラ福岡「山里」 出席者:11名(委任状 8名)

1. 開会の言葉
2. 支部長挨拶
3. 議事

顧問:守山 恵子  
支部長:萩尾 憲子

### 【報告事項】

- ①2022年度事業報告
- ②2022年度決算報告
- ③2022年度会計監査報告

支部長:萩尾 憲子  
会計:桑原 洋子  
会計監査:西原 そめ子  
支部長:萩尾 憲子

### 【審議事項】

- ① 役員の承認 支部長:萩尾 憲子  
名誉顧問:和栗 方子、青沼 美撫子、西原 そめ子  
顧問:加藤 仁美、守山 恵子  
支部長:萩尾 憲子  
書記:相良 かおる  
会計:桑原 洋子  
会計監査:松藤 泰代  
会報:久保田 千景

- ② 2023年度事業計画 萩尾 憲子

- ③ 2023年度予算 桑原 洋子

4. 卓話 講師:名誉顧問 和栗 方子 氏  
「大学女性協会と福岡支部の歴史に学ぶ」



桑原 西原 萩尾 松藤 道野  
加藤 守山 和栗 石蔵 相良

### 和栗方子元支部長のお話を伺って(2023年度福岡支部総会にて)

大学女性協会福岡支部のこれまでの歩みを振り返ると、その時々支部長をしてくださった方々に感謝の気持ちが溢れます。特に、和栗方子さんは、最長の12年(4年+8年)にわたり、福岡支部を率いてくださいました。お義母さまの和栗静子さんは、大学女性協会設立当初からの会員のお一人で、昭和30年代に2年間支部長をしてくださっています。

方子さんご自身はまだ会員ではなかった時から、お義母さまを通して、大学女性協会を近くで見えいらして、他の会員の方々とも知り合われたということです。1981年にはカナダバンクーバーで開催された大会に出席されたお義母さまが、カナダを旅行中に骨折されて手術を受けることになり、カナダカルガリーへかけつけられたり、常日頃は国内の総会や例会の送迎をされたりなさいました。会員になられる前から大学女性協会のことをよくご存じで、当時の会員の方々の誘いを受けて会員に加わってくださった和栗方子さんへの皆様の期待が大きかったことは想像に難くありません。

支部長になられてからは、支部長会に出席されるために全国各地へ出かけられ、2004年にはオーストラリアシドニーでの大会にも出席されました。

忘れてはならないのは、2007年に福岡で開催された総会が、多くの会員の協力のもと、成功裏に終わったことです。実行委員長と共に、支部長としてどれだけ心を砕かれ、時間を費やされたことかと思えます。長い支部長時代には、孤軍奮闘されたこともあったようです。それでも、大学女性協会のために、福岡支部のために、一人一人の会員のために、そして社会のために力を尽くしてくださいました。

現在も、欠かさず例会や講演会に足を運んでくださり、支部役員や会員を励まし続けてくださっています。

(守山 恵子)

5. 食事、懇談

6. 閉会の言葉

顧問:加藤 仁美

コロナのため書面総会やZoom会議が続き、一時は支部閉鎖の危機に見舞われた福岡支部も、こうして2023年度の総会を対面で開催できたことは何よりも嬉しいことでした。さらに嬉しいことに、病気療養中の名誉顧問青沼美撫子さんが車椅子で遠路会場までお出で頂き、拝顔できたことでした。そのうえ新規入会の道野佐世さんをお迎えし、まだまだ入会予定者がいらっしやるとの朗報に接しました。折よく卓話で和栗方子さんの義母様の時代、支部草創期の奮闘記をつぶさにお聞きして、行く手を照らす一条の灯思いました。彩りもお味も優しく美味しい和のお食事を堪能し、嬉しいことづくしの総会でした。

(加藤 仁美)

## 2023年度（一社）大学女性協会 第12回定時会員総会報告

日時:2023年5月20日(土)~22日(月)  
会場:グランドプリンスホテル新高輪  
出席:萩尾 憲子

支部長会 5月20日(土)14:30~16:30  
懇親会 5月20日(土)18:00~20:00  
総会 5月21日(日)9:30~16:00  
研修 5月22日(月)



(本部総会)



(支部長会)

コロナ感染症が5類になり、日常が戻ってきつつある状況の中、大学女性協会支部長会・会員総会が盛大に開催され、出席致しました。

全国から19支部の支部長が参加し、活発な意見交換が行われました。どの支部も高齢化・会員減の悩みは同じであり、若手の活動場の必要性が提案されました。研修の講師を学生さんに依頼し、入会を促してはみるものの、なかなか入会までこぎつけない、というどこも同じ問題を抱えているようでした。ただ、同じ目的を持つもの同士、一同に会し、大変有意義なひと時でした。その後の懇親会では、おいしい食事とともに、「箏と尺八の調べ」があり、贅沢な時間を共有することができました。海外でも活躍中のみなさんの演奏は、聴きごたえのあるものでした。特に尺八奏者の田辺 恵山さんは、柔らかな音色とともに女性としての優しさがこもった演奏でひと際輝いてみえました。

翌日は、会員総会の開催、朝早くから会議会議の一日でした。

総会の報告議題終了後は、GWIとJAUWについて紹介して頂き、大学女性協会の歴史を興味深く伺いました。数年にわたっての議案であった「災害の記憶をつなぐ」出版の紹介もあり、災害時の女性の力の必要性、女性ならではの視点からの防災意識等を考える一端となりました。(福岡支部久保田会員の貴重な体験談も掲載されています。)

全国で活躍する支部のみなさま…取りまとめて頂いている本部のみなさまのご尽力をうかがい知る一日となりました。新会員の加入及びJAUWの益々の発展を祈らずにはいられない総会となりました。(追記)守田 純子氏ご逝去に伴う遺産相続のお知らせがあり、寄贈のご意志を受け、新しい事業(若手助成科学研究奨励賞)が発足する旨が発表されました。実は、このご遺産処理に関しては、福岡支部青沼元支部長のご尽力があったことをご報告致します。

★青沼さんは、不屈の魂をお持ちです。何があっても復活されます。今回の病魔からも絶対復活されるものと信じています。2022年、福岡支部は、存続の危機に面しました。しかしながら、和栗さん、青沼さんを初め会員のみなさまの大学女性協会への深い愛情により、歴史を大切に継続していくことが決まりました。

青沼さんのご尽力に感謝し、福岡支部への想いを寄稿して頂きました。(萩尾 憲子)

### 大学女性協会福岡支部への想い

元大学女性協会福岡支部  
支部長 青沼 美撫子

福岡支部で本部総会を開催してほしいと言われ、経験者の故船津 桂江(けいこう)会員が実行委員長となられ、準備をし、名称変更の決を取る大事な仕事があり、大学女性協会(JAUW)に変更されて今に至っています。

この活動は、自分が研修会、講演会に出席し、世界や日本で活躍されている人々のお話を、何とか時間を作り、会に出席して、見たり、聞いた事を考え、想像しない事には、活動の面白さも無いし、人々に対する思いやりも、やさしい心も生まれませんと思います。

もっと世間にこの様な活動している事を知ってもらいたいと思っています。

自分の身体が、もう少し動けるようになれば、活動を再開し、話を伝えていきたいと考えています。

## 安永悠紀子さんを思う

ふんわりとしたお身体に色白な小さなお顔、その目はいつも親しみを感じるお方でした。

仕事は確実できちんとなさる。支部の会計のお仕事を長年なさって、後には監査もしていただきました。物静かで落ち着いたお方だったという印象です。

全国大会へもよくご一緒しました。京都や東京、それに韓国へも行きましたね。会議では真剣に向き合い、ポストツアーは思い切り楽しく、思い出は尽きません。

まだまだ静かにこの会をささえていってくださると思っていました。とてもとても淋しいことでございます。

どうぞいつまでも見守ってくださいますように。

ご冥福をお祈りいたします。

(和栗 方子)

## 新入会員のご紹介 (入会順 敬称略)

道野 佐世 眞子 由佳里 萩尾 紀子 松丸 ヒロ子

どうぞよろしくお願ひいたします。

(一社) 大学女性協会 (JAUW : Japanese Association of University Women)

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟 (IFUW : 1919年創立) に加盟。

2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織 (NGO : Non-Government Organization) です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

Web ページ : <http://www.jauw.org/>

会費

入会金 1,000 円 (正会員のみ)

年会費 正会員 7,000 円 (IFUW 年会費を含む)

賛助会員 6,000 円

福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

国際大学女性連盟 (IFUW : International Federation of University Women)

世界 61 カ国の大学卒業女性による 国際非営利、非政府団体です。

なお、2015年4月より GWI (Graduate Women International) に名称変更しました。

本部はジュネーブにおかれ、3年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。

以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する

